

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスほーぷふる		
○保護者評価実施期間	令和7年2月7日		～ 令和7年2月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年3月3日		～ 令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○個別支援計画の質が高い アセスメントから計画立案、モニタリングまで一貫した流れが確立させており、継続的な見直しが行われている。	○支援前後のミーティングの実施 毎日、支援前後にミーティングを実施し、支援の振り返りと情報共有を行っている。	○第三者評価の実施 専門的・客観的な評価を受けることで、支援の質の向上と改善の新たな視点を作る
2	○支援の可視化と共有が徹底 グループLINEや個人ファイルによる支援計画の共有が実施され、職員全体で支援内容を把握出来ている。	○季節行事や特別活動の企画 年間を通じた季節のイベントや長期休暇中の特別プログラムなど、活動のマンネリ化を防ぐ工夫をしている。	○ペアレントトレーニングの導入 家族支援の一環として、保護者が子どもへの関わり方を学ぶ機会を設ける。
3	○自己決定・選択支援の意識が高い 子どもの自己選択の機会を設け、自己決定能力の育成に努めている。	保護者からの意見を職員間で共有し、具体的な改善活動につなげる仕組みが出来ている。	感覚過敏・鈍麻への対応や視覚支援ツールの整備など、個別ニーズに応じた環境整備を進める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○バリアフリー化の遅れ 肢体不自由の子どもへの配慮が不十分で、物理的環境整備が必要。	○活動スペースの不足 活動スペースが狭く、個別支援や集団活動の選択肢に制限が出ている。	○環境改善(バリアフリー・スペース拡張)計画の検討 物理的環境を整えることで、より多様な子どもたちのニーズに対応
2	○職員数の不足感 基準は満たしているが、支援の充実にはより手厚い人員配置が必要。	○職員配置の限界 基準人数は確保しているが、発達特性に合わせた柔軟な支援の為には人員強化が必要	○外部研修・スーパーバイズの積極的導入 職員の専門性向上と質の良い支援実現の為の継続的な学びの場の確保。
3	地域・医療・福祉機関との連携の弱さ 支援ネットワークが限定的で、地域社会との連携強化が必要。	○連携体制の構築不足 関連機関との連携が十分でなく、地域包括的な支援体制の弱さ。	○地域連携強化 子どもの成長・発達に必要な切れ目ない支援体制構築の為のネットワーク化。